

危機管理連絡会議

日時：平成 29 年 5 月 14 日（日） 14:30 ～

場所：県庁 4 階 405 会議室

協議事項

- ・ 北朝鮮による弾道ミサイルの発射について
- ・ 世界同時サイバー攻撃への対応について

(お知らせ)

平成29年5月14日

防 衛 省

1. 現時点までに得られた諸情報を総合的に勘案すると、北朝鮮は、本日5時28分頃、北朝鮮西岸の亀城(クソン)付近から、1発の弾道ミサイルを東北東方向に発射した模様です。発射された弾道ミサイルは、2,000kmを超えた高度に達し、30分程度、約800km飛翔し、北朝鮮東岸から約400kmの日本海上に落下したものと推定されます。なお、落下したのは、我が国の排他的経済水域(EEZ)外と推定されます。詳細については現在分析中ですが、度重なる弾道ミサイルの発射は、我が国及び地域の安全保障に対する重大な脅威であり、断じて容認できません。
2. これを受け、防衛大臣は「引き続き、情報収集・警戒監視に万全を期せ」との指示を出しました。その後、関係幹部会議を開催するとともに、防衛大臣が国家安全保障会議四大臣会合に出席し、情報の集約及び対応について協議するなど、対応に万全を期しているところです。
3. 防衛省・自衛隊としては、引き続き、大臣指示に基づき情報の収集・分析及び警戒監視に全力をあげるとともに、今後追加して公表すべき情報を入手した場合には、速やかに発表することとします。

国際情勢(5月3日～5月9日)

以下は、国民保護室の担当者が執務の資料とするため公刊資料を要約、作成したものである。

【朝鮮半島】

「正恩氏をたたえ対米敵対心煽る北朝鮮 党委員長就任1年迎え」

北朝鮮の朝鮮中央通信は金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長が党大会で現在のポストに就任してから1年となる9日、9000文字を超える長文の記事を掲載し、金委員長をたたえた。また「米帝(米国)とその追従勢力が史上最大の核恐喝・圧力と制裁・封鎖策動にしがみつき、われわれの大切な全てのものを奪おうと暴れ回った」と主張し、核・ミサイル開発を続ける北朝鮮への圧力を強める米国への敵意を煽り立てた。金委員長は36年ぶりに開かれた党大会の最終日の昨年5月9日、新設ポストの党委員長に推戴された。

「北朝鮮 アメリカ人1人を新たに拘束と発表 計4人に」

北朝鮮は、首都ピョンヤンにある大学の運営関係者のアメリカ人1人を敵対行為を行った疑いで新たに拘束したと発表した。北朝鮮で拘束されているアメリカ人はこれで4人となり、圧力を強めるアメリカのトランプ政権に揺さぶりをかける狙いがあるとみられる。北朝鮮は先月22日にも、ピョンヤンの国際空港でピョンヤン科学技術大学に教授として招へいされていた韓国系アメリカ人1人を拘束したばかり。

「米国と北朝鮮 ノルウェーで非公式協議へ」

アメリカと北朝鮮の緊張が続く中、8日からノルウェーで米朝の非公式の協議が行われることがわかった。韓国政府関係者によると、非公式の協議はノルウェーのオスロで8日と9日の2日にわたり行われる。アメリカ、ノルウェーの有識者と北朝鮮の外務省関係者が出席し、アメリカとの交渉のキーマンとなる崔善姫(チェ・ソンヒ)北米局長も参加するという。先週トランプ大統領は「状況が適切なら金正恩委員長に会う」と発言するなど、米朝関係が緊張する中で対話をにらんだ駆け引きが行われている。こうした中で行われる今回の協議にアメリカ政府の関係者は出席しないが、北朝鮮側の意向は有識者を通じて伝えられるものとみられる。

「北朝鮮の石炭輸出200分の1に急減 3月、中国の輸入停止響く」

北朝鮮の石炭輸出が急減した。国連安全保障理事会によると輸出量は3月に6342トンとなり、2月(123万トン)の約0.5%の規模に減った。中国が2月に北朝鮮からの輸入を停止したことが影響したようだ。石炭は北朝鮮が貴重な外貨を獲得する手段となっており、中国の輸入停止が続けば経済的な痛みは大きい。トランプ米大統領が北朝鮮に対する強硬姿勢を強めるなか、中国は国際社会と足並みをそろえ、2月19日から石炭輸入を停止した。

【テロ】

「連続爆発、2人死亡=ISILのテロ? -マニラ」

フィリピン警察によると、同国の首都マニラで6日夜、2回の爆発があり、2人が死亡、6人が負傷した。過激派組織「ISIL」が声明を出し、イスラム教シーア派への攻撃だと主張したが、警察はテロの可能性を否定している。報道によると、1回目の爆発について警察高官は「荷物が爆発し、オートバイで運んできた配達人と受取人が死亡した」と述べた。2時間半後にもう一度、現場付近で爆発があり、集まっていた警官が負傷した。

世界同時サイバー攻撃について

電子行政推進課

■全庁LANの被害状況

- ・今回の攻撃による、全庁LANの被害なし。
- ・今回の攻撃に使われた、Windows の脆弱性への対応は完了済み。

■ランサムウェアとは

- ・ファイルを使えなくする、コンピュータウイルス。

■今回のサイバー攻撃

- ・メールを通じて感染をさせるタイプで下記の2種類がある。
 - 1) 本文に記載されている URL をクリックすることで、特定HPに誘導し感染させるタイプ
 - 2) ウィルスが添付されているタイプ。

■注意事項

- ・月曜日15日、メールボックスに、ウィルスメールが届いている可能性があるため、不審なメールは不用意に開けないように。
- ・注意喚起は、全庁掲示板を通じて行うが、各所属においても周知を徹底すること。
- ・Windows アップデートやウィルスチェックを「各課で管理しているサーバ」については、管理会社と連絡を取り早急に対応すること。
- ・単独でインターネット回線を運用している病院等においては、その回線に接続しているパソコン等の端末について、感染の確認と早急なセキュリティパッチの適用を行うこと。
- ・業者のPCからウィルスに感染する可能性があるため、システムの構築・運用（特にリモートメンテナンス）を委託している事業者に対して、注意の呼びかけを。